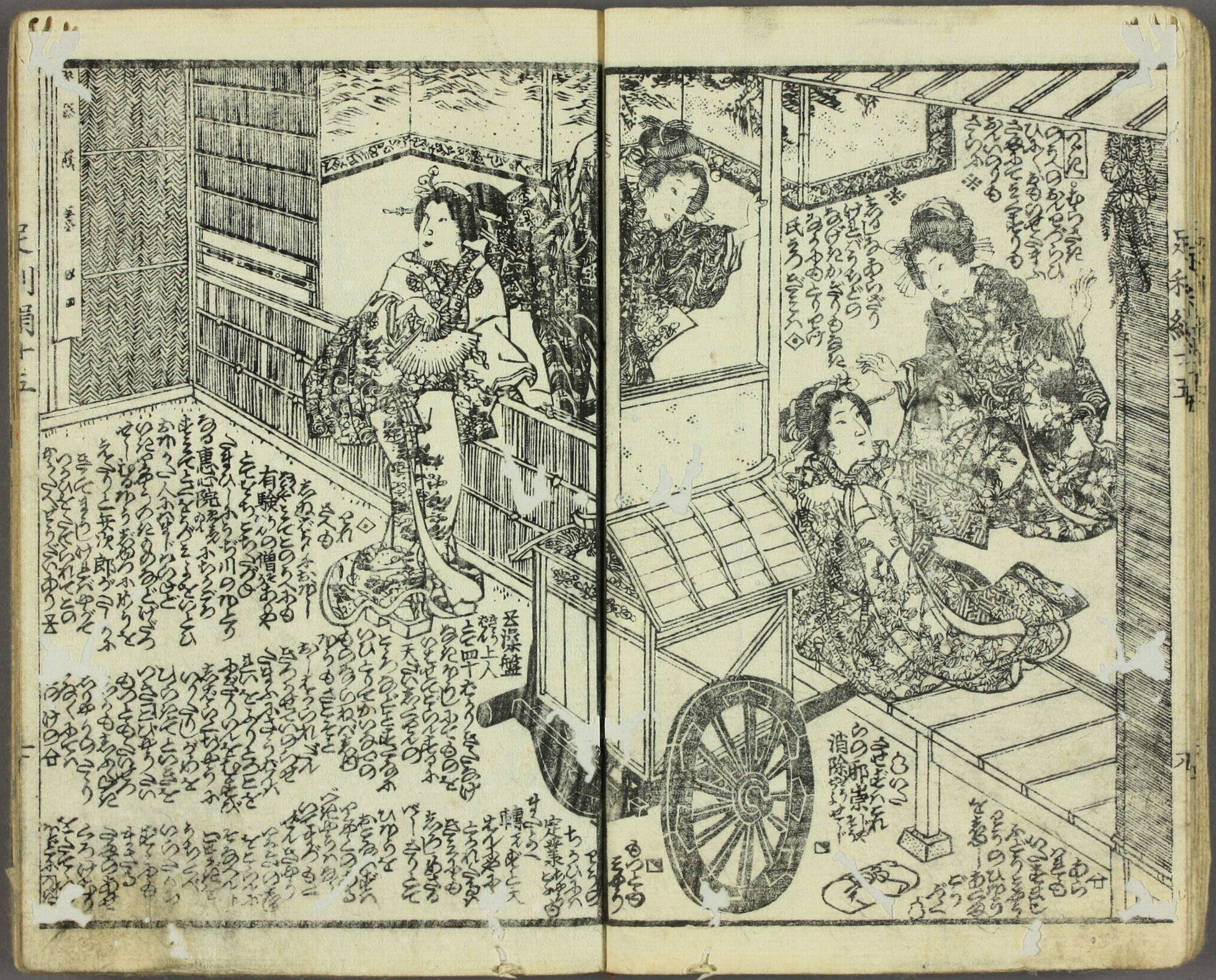
十五編上

甲寅新鐫
笠亭仙果作
梅壑樓
國貞画圖
あしかきぬ手染紫
十五編
上巻
錦林堂
壽梓

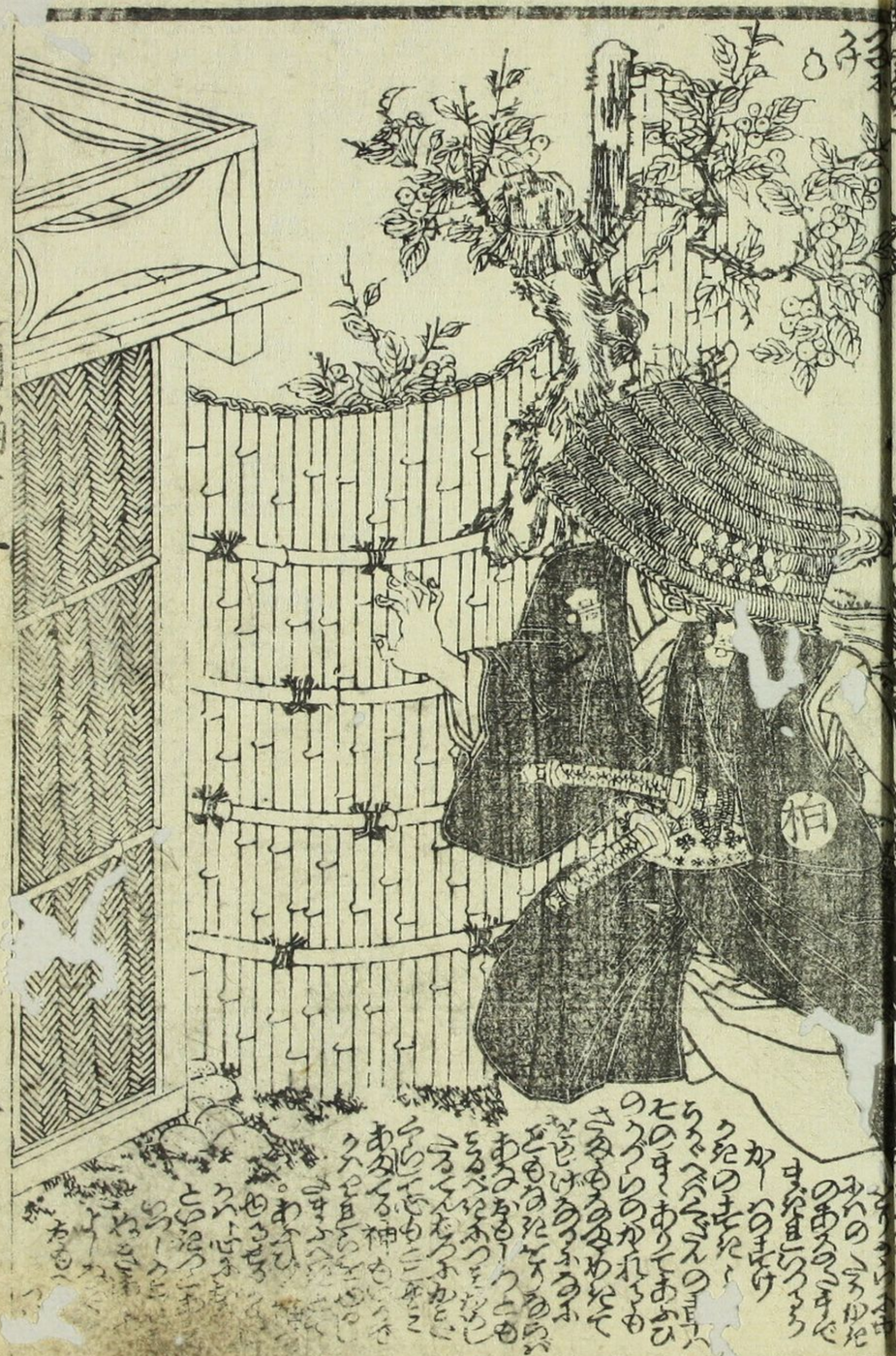
吾友某がいへらく目利口利などいふをみれば下野の郡名足利にあしきての意にはあらぬうさるを語の卑きまくにあしかぐと轉称うといへり（かさくけこの相通ふてきくともうくともいへる）そもそもさることはあれど足力飛脚未踏等は件里から出るがよいといふ常語も未聞ぜ又借字とおもはるれど牽強の愚考もなし利をかぐと訓ては利得利潤のことを指て古昔はかくと称へ確實なる證故あれど草造紙の序に不相應ねば棚へ總角早蕨の巻々はまだ末遠き初春の野の芹薺七種若菜の下文様ごとまて小褄を短くからげとくく次編が御覧に入るべく急ぐとはれど歩行べき氣は紅絹裂の草履紐足利の意と表裏にて唯雲顧を杖とこのこ宇治迄早う往こいだろり筆の立場も倉皇なれば馬借にあらぬ板元の主人もお役のころでかだろりの拙作をも彫るべし

丙寅献春良辰

笠亭仙果



有験
恵心院



世
女

元

足利絹十五

仙果作國貞画

下の巻へ

足利絹

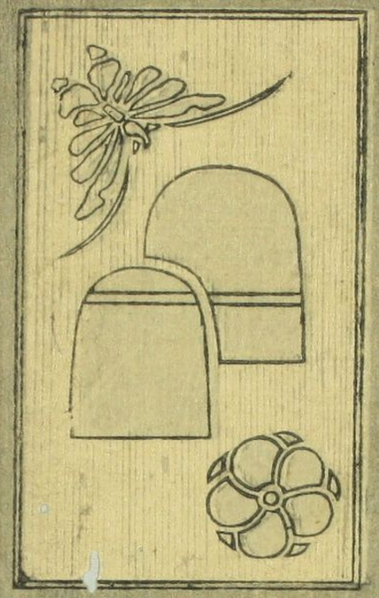
十五編下

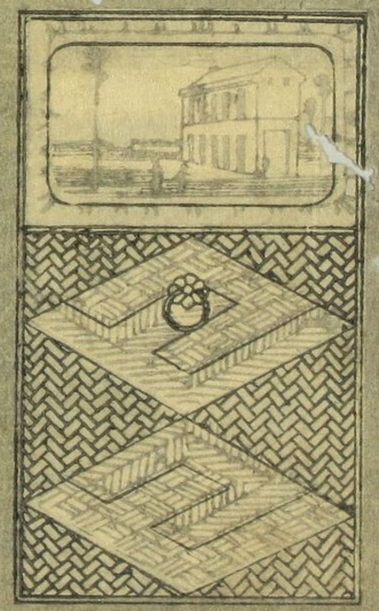
仙果作

足利絹

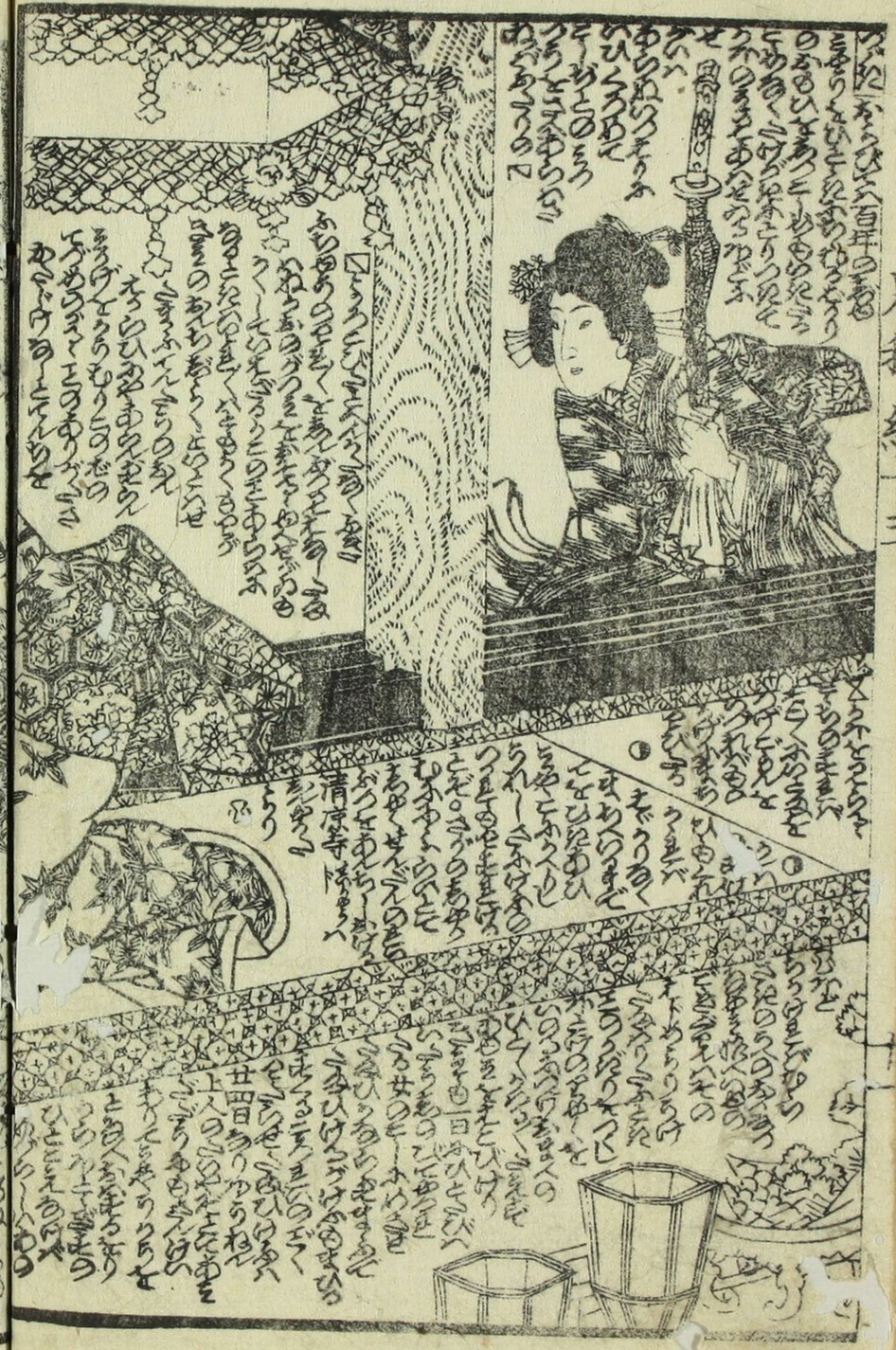
十五編

下巻

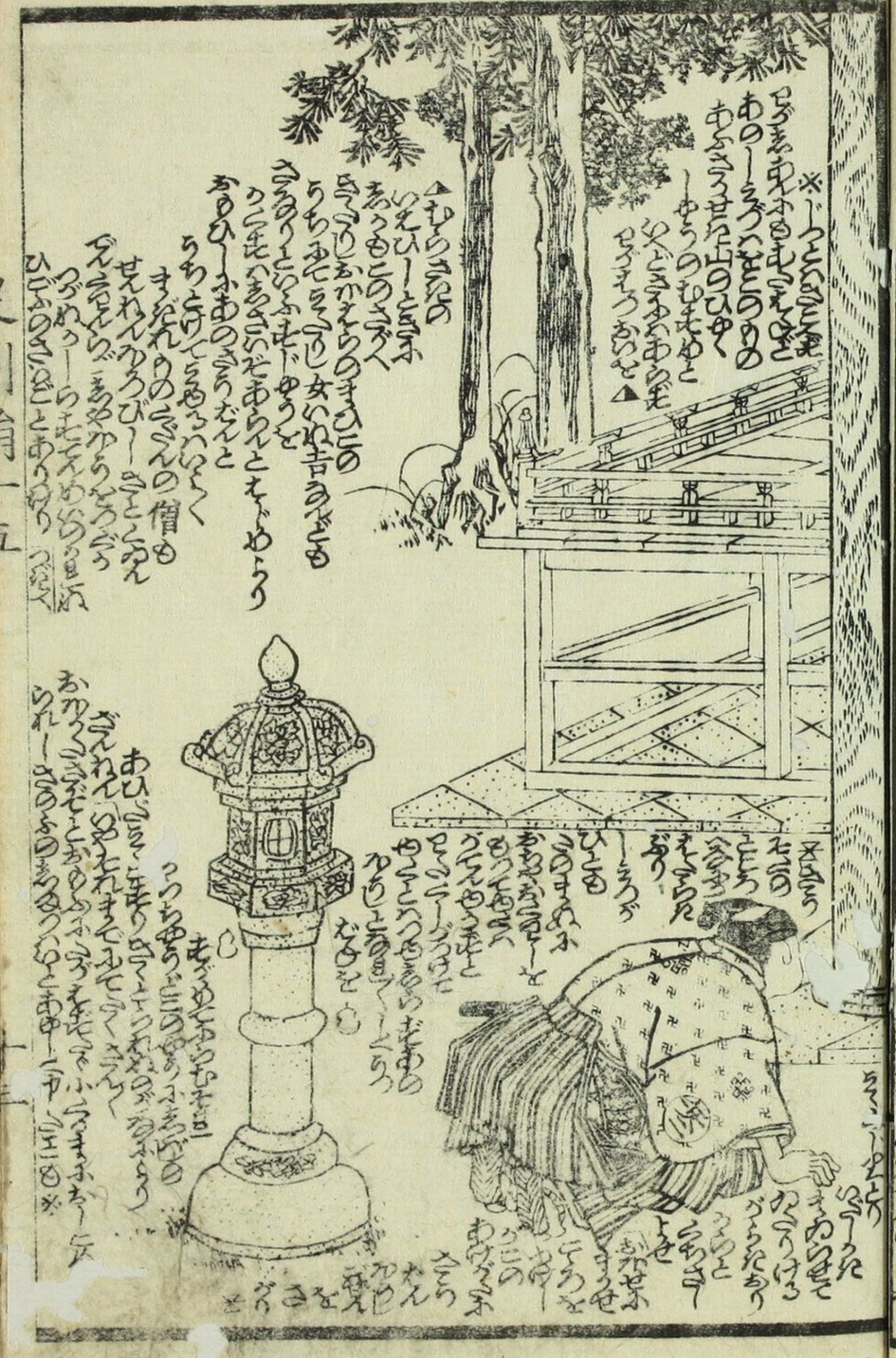


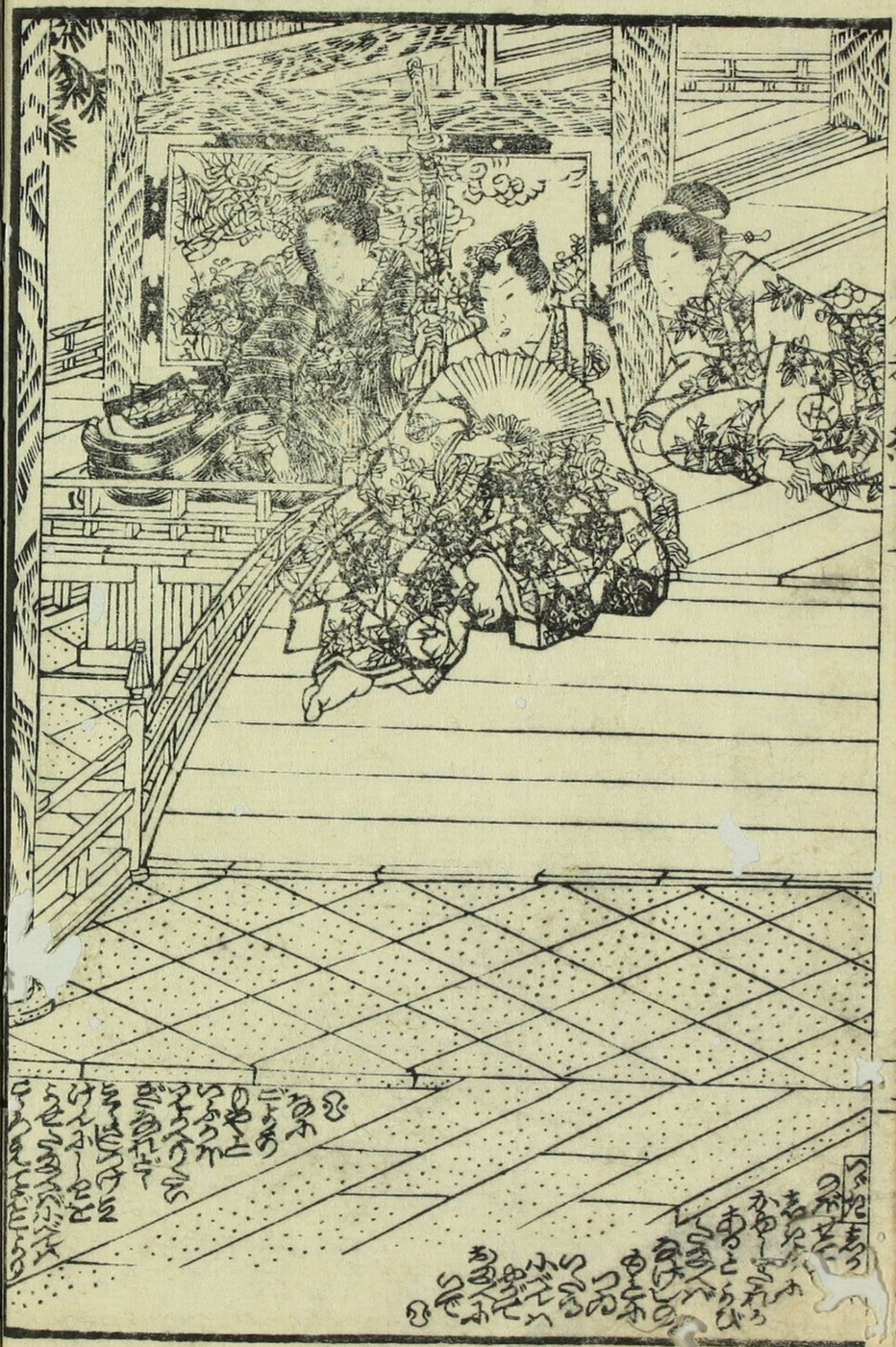


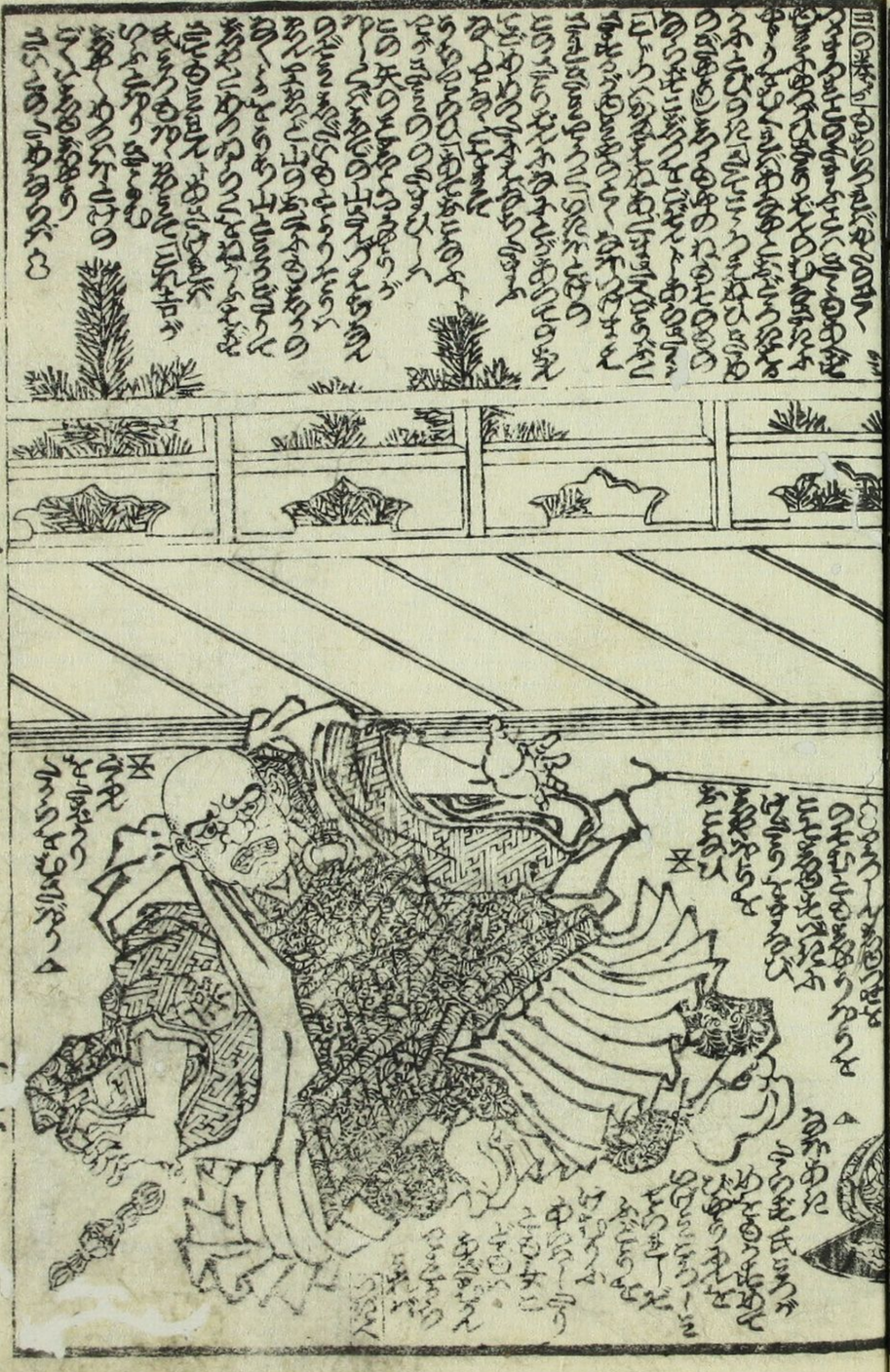
宮美新刊
笠亭仙果作
一壽亀國貞画
神田[illegible]町
吉田屋藏刊



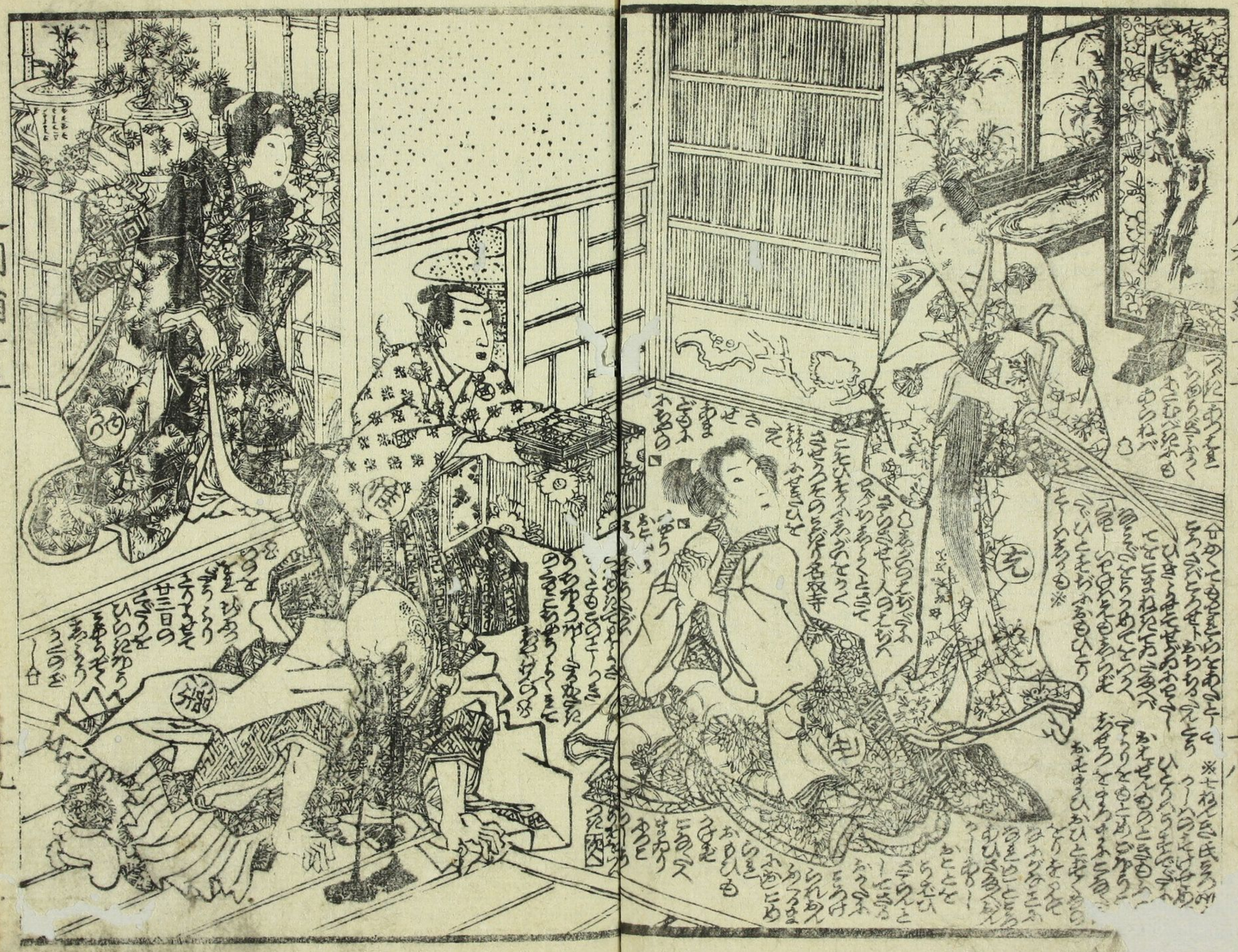
次へ

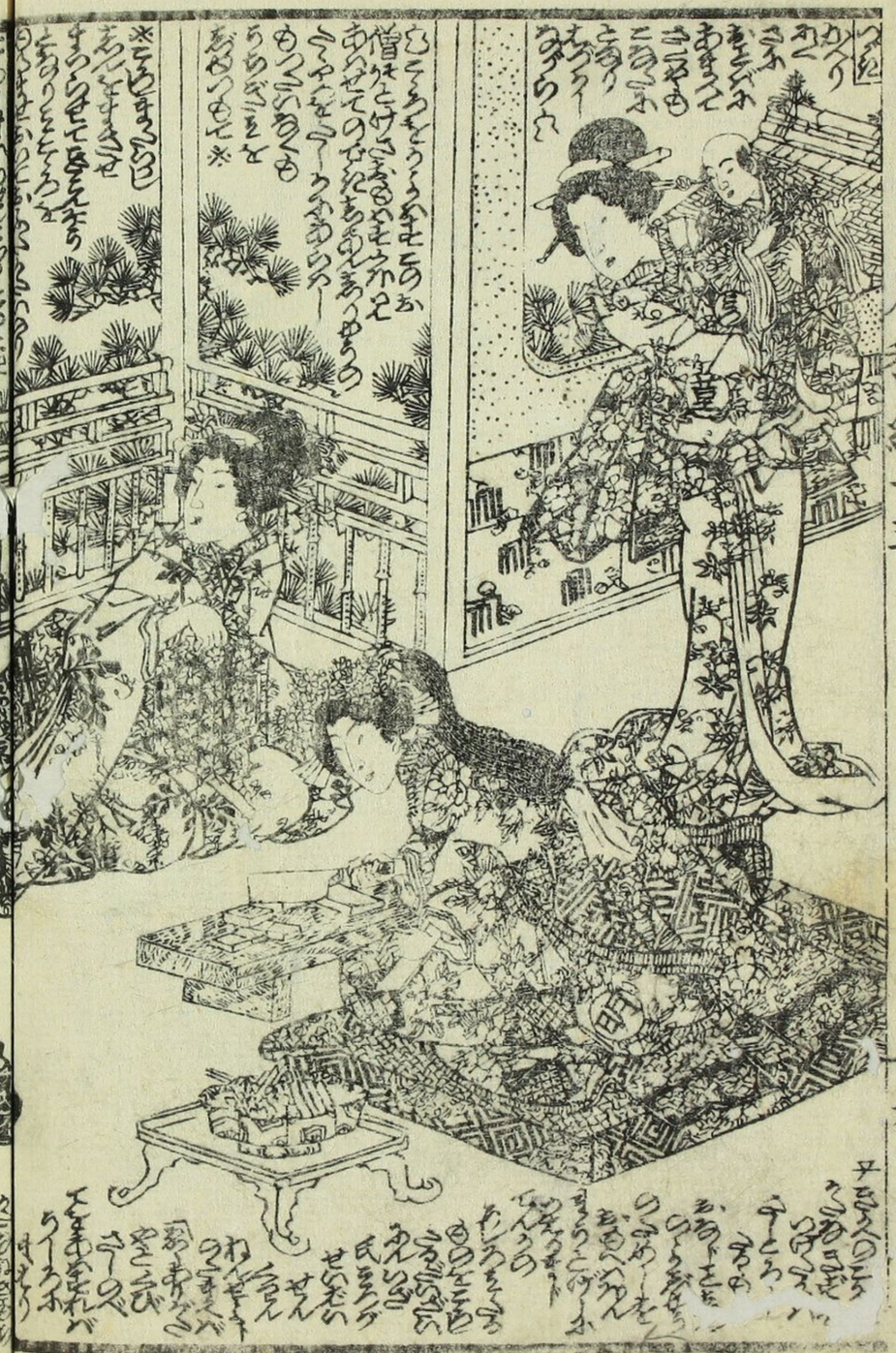






小





笠亭仙果作
梅蝶樓國貞画

錦昇堂藏板目録

其由縁鄙俤 十四編 笠亭仙果著作
十五編 梅蝶樓國貞画
十六編

十勇士尼子の礎 三編 為永春水作
四編 壽齋國貞画

兩夜鐘四谷雑談 五編 河竹其水作
六編 歌川國貞画

比奈乃都大内譚 初編 笠亭仙果作
二編 一勇齋國芳画

地本繪草紙問屋 江戸通り町 恵比壽屋庄七板

金
国清

摂津国江口の阿曾毘
夜河屋の落葉
足利雲井丞
氏仲

○序文にかへて口画のうれいを

室町將軍義澄公御墓所 明石の上

六條は所北七方の山時明石の浦にて誕生今年北一方なり孫の裏葉は十三方にて出輿入若菜の

上は十五方にて光千代君を生せるは昨年の夏閑雜地姫を設けのひ今年二月まこは男子出年寿あり若君と号し奉る三郎殿ともゆゑ末々都の巽の巻にいたる白ふ君と綽名つけらるものは好き人はこの歳方の若君なり

十六ろんちこれじゆ
▲氏このぎこの明察談と善謀

充
槿

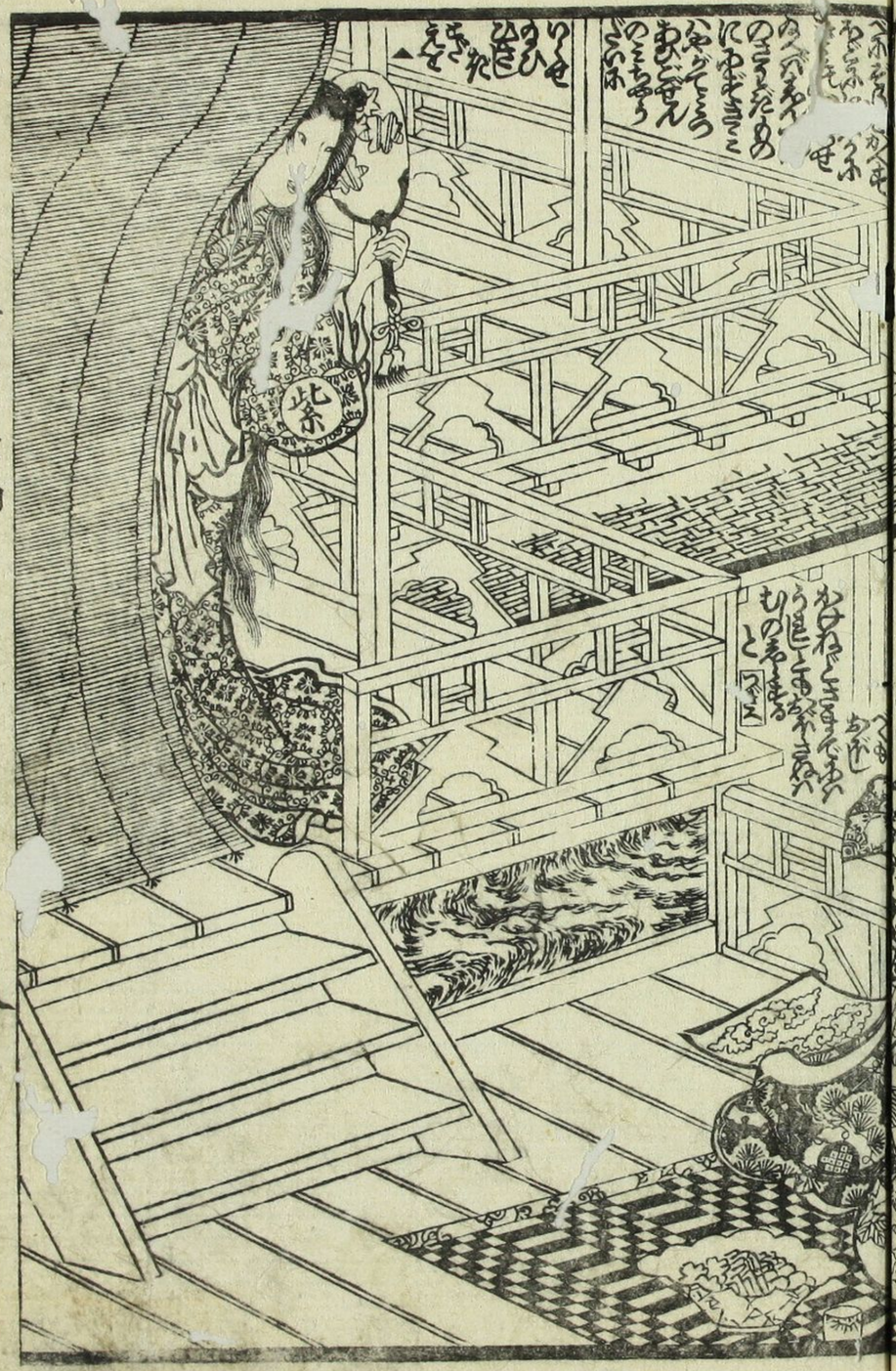
紫

越
會

光

里

充


紫

敎川國貞画

仙果作
國貞画

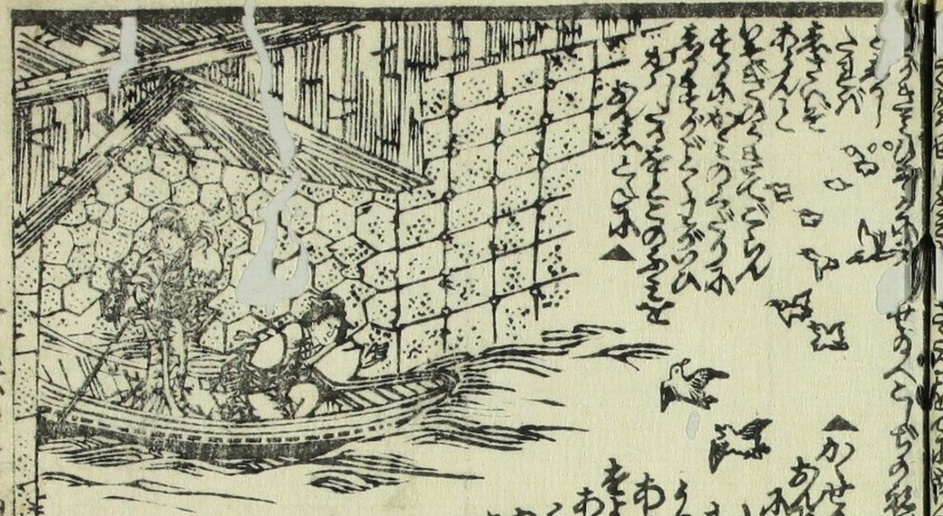
足利諸氏傑出

国貞画

売

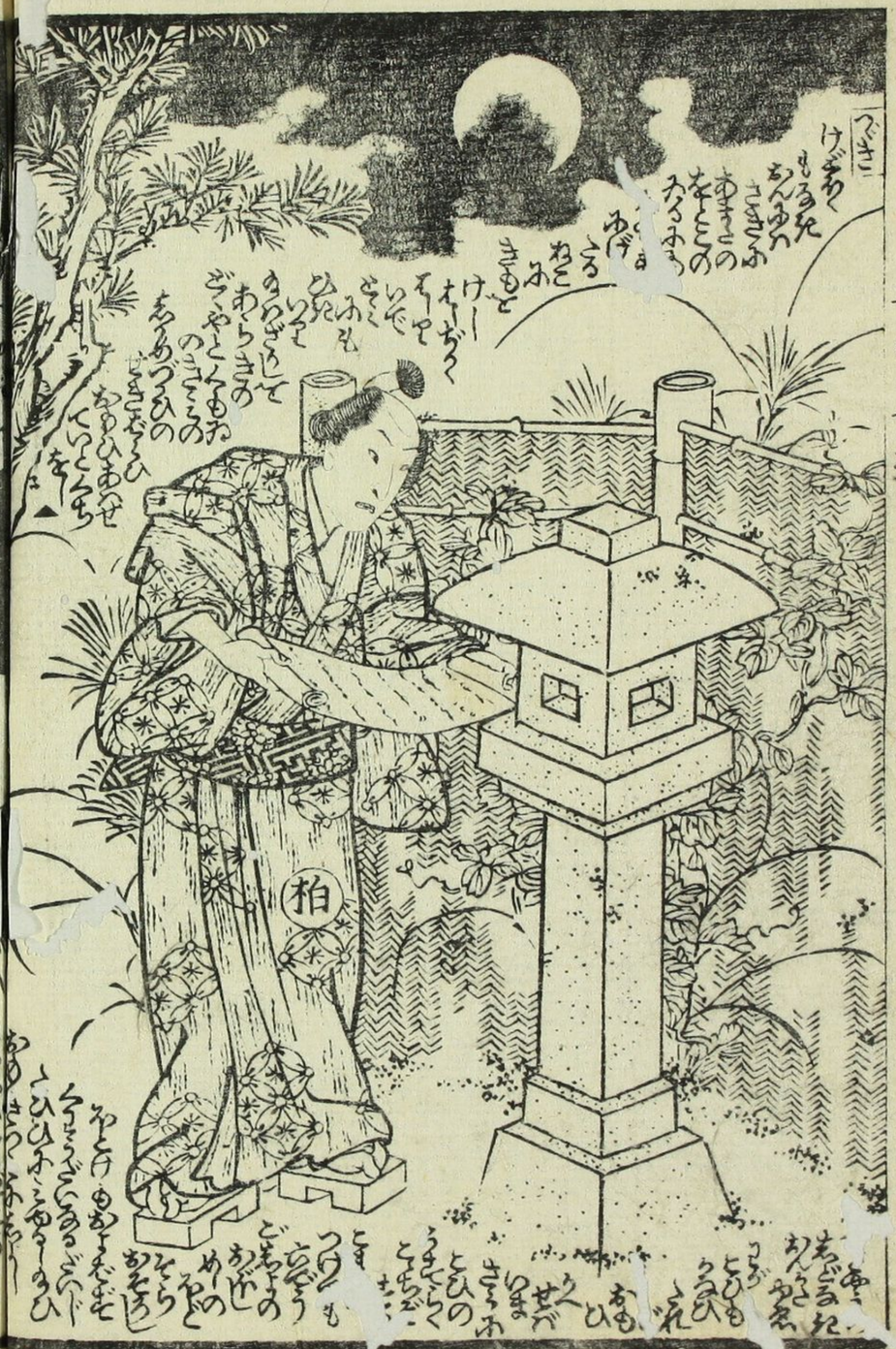
越
ぬ

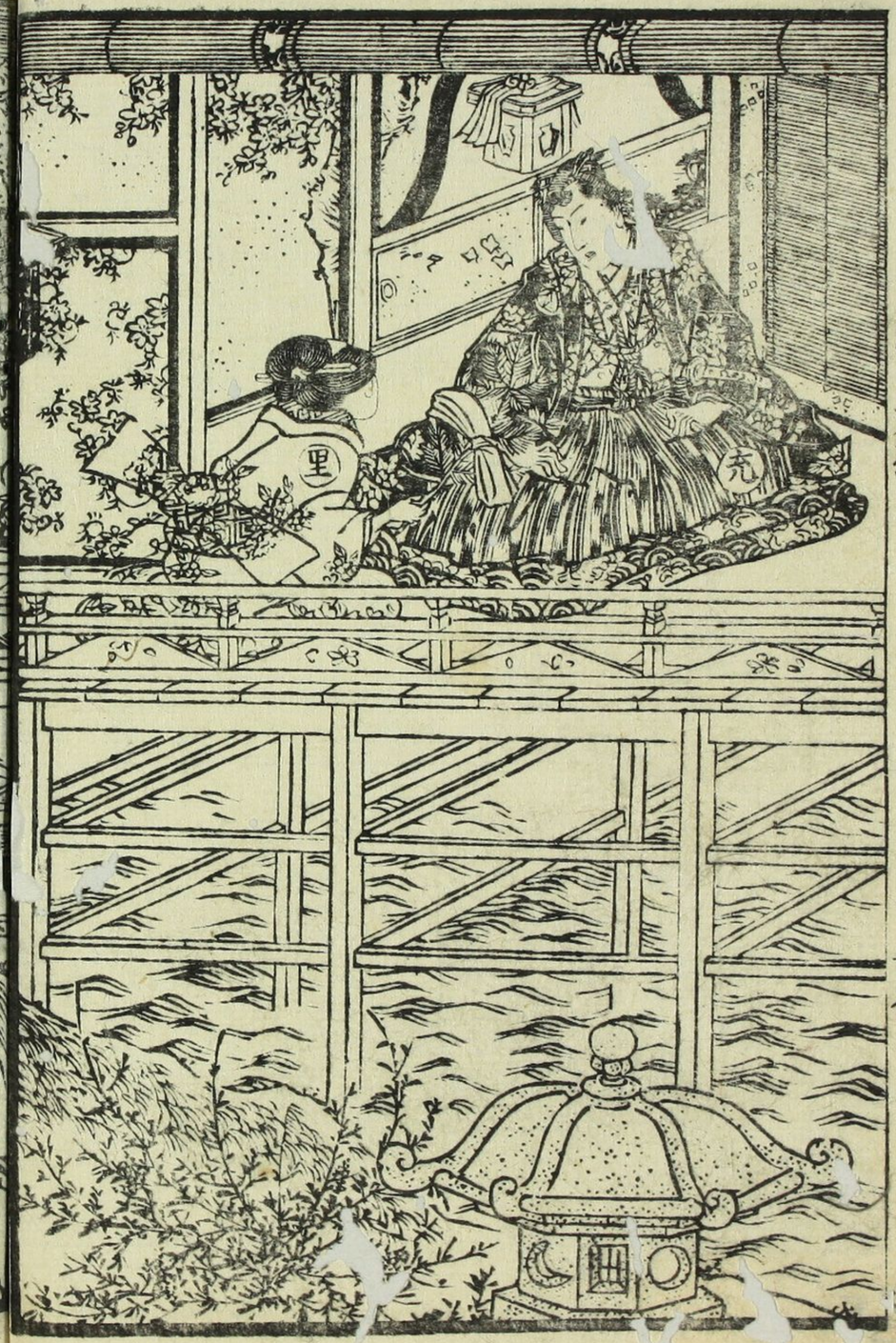
越
曾
丸

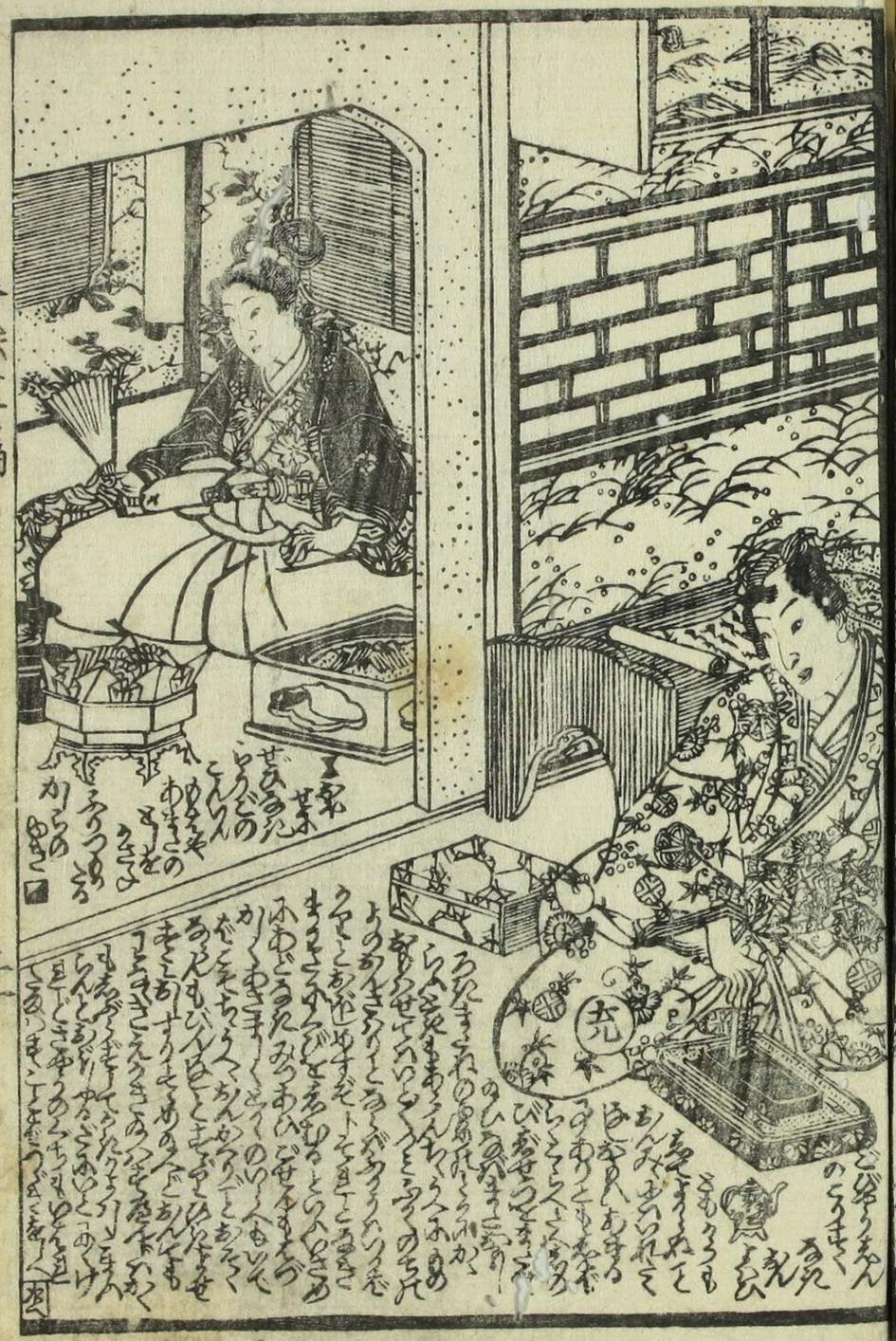


充

里
越


柏





樂亭西馬作
稲妻形怪鼠標子 出板
一勇齋國芳画 六編 七編

比異仕立 二個[illegible]
[illegible]
一[illegible]國貞画 四編 五編

文[illegible]
[illegible]

[illegible]紅[illegible]
[illegible]谷峠
種[illegible]
[illegible]
國貞画

壽笑亭笑壽作
與謝武郎戀夜話
一壽齋國貞画 五編 六編

錦昇堂
[illegible]

國貞画 仙果作